

1. はじめに

このプログラムは8月28日から9月14日までの18日間行われ、今回の参加者は北海道教育大学から3名と山口大学から1名の計4名でした。現地では漢城大学校の先生2名と、函館校に留学を控えた韓国人の学生2名がサポートをしてくれました。プログラム自体は実質11日間で、土日や帰国前日は授業がありません。漢城大学校は坂の上にある学校で、ソウルでは1番小さな大学だということでした。

2. プログラムの内容

(1) 授業

授業はプログラム期間中に6日間あり、土井美穂先生という日本人の先生が韓国について政治・経済や日韓関係などのテーマについて講義してくださいました。講義では似ているようで違う文化、意識の違いなど今まで知らなかった韓国のことをたくさん知ることができ、とても勉強になりました。

また、韓国語の授業も行われました。最初は韓国語初心者にあわせてハングルの基本から学びましたが、途中からはレベル別に分かれて行われました。私は独学で韓国語の勉強をしていて、今回のプログラムでは韓国語を話すということに重点を置いていたので、発音を教えてもらえる授業はとても有意義でした。また、独学では得られない語学の楽しみを実感することができたと思います。

ただ、授業自体が5回と少なく、時間も10時から12時までの2時間しかなかったため、個人的にはもっと授業が多くてもよかったと感じました。韓国語のレベルが違えば授業の進行も難しくなるので、今後プログラムに参加する方は、事前に基礎を勉強していくと韓国語をより濃く勉強できるのではないかと思います。

(2) 観光

プログラムではソウルの至るところに行かせていただきました。DMZ という韓国と北朝鮮の非武装地帯、景福宮、晶徳宮、戦争記念館、国立中央博物館、エバーランド(遊園地)などに行ってきました。私は特にDMZとエバーランドが記憶に強く残っています。DMZでは北朝鮮が掘ったというトンネル



の中を歩いたり、展望台に行ったりしました。展望台からは雨が降っていて北朝鮮側は見えませんでしたが、都羅山駅というところで軍人さんとお話できました。領土問題により日韓の関係が悪くなっていた時期だったので、その軍人さんがとても友好的であることに驚きましたが、とてもいい経験ができたと思います。

エバーランドは遠くて移動が大変でしたが、ディズニーランドのようなとても広い遊園地でした。乗り物だけでなく、サファリパークのようなものもあります。記憶に残る楽しい1日となりました。

またプログラム中はNANTAという公演やB-BOYのダンスを見たり

<銃で穴の開いた汽車(DMZ)> 韓服体験をしたりと色々な経験をさせていただきました。

3. ソウルの様子

ソウルは都会で地下鉄に乗ればいろんなところに行くことができます。今回はバスやタクシーにも乗りましたが、日本に比べるとかなり運賃が安いので気軽に出かけることができました。また、カフェがたくさんありました。あちこちにカフェがあるのでショッピングに疲れたらカフェで一休みというパターンが多かったように思います。そして教会も多いです。授業でも習いましたが、韓国にはクリスチャンが多いためにあちこちに教会があります。寮の近くにもあり日曜日は賑わっていました。



<広蔵市場>

ソウルの治安については、夜ひとりで歩くなどしなければ大丈夫です。

このプログラムが行われた時期は領土問題が深刻化していたため、今韓国へ行くのは危ないのではないかという心配もあったことは確かですが、実際に行ってみると韓国の方は親切で、特に危ないと感じることはありませんでした。外国にいるという自覚と危機感を持って行動していれば大丈夫だと思います。そのほかにも街では屋台フードを楽しむことができ、日本にはない韓国の日常をたくさん体験することができました。

4. 寮について

今回、私たちは漢城大学校の外国人教授用のゲストハウスに滞在していました。このゲストハウスは大学まで約 20 分、地下鉄駅まで約 15 分に位置しています。大学は坂の上であり、途中には商店やコンビニがあるのでちょっとした買い物をしたり、お土産を買ったりもしました。朝ご飯は各自とることになっていたのですが、コンビニは大活躍でした。

部屋にはガスキッチン、ユニットバス、クローゼット、冷蔵庫があり、冷暖房もあるので快適に過ごすことができました。鍋さえあれば料理を作することもできます。ただ今回食器などは各自で用意しました。また、共同の洗濯機も全部で 4 台あり便利でした。部屋に机がなかったのは少し不便でしたが、近くのカフェで勉強したりしました。それもまた思い出になっています。タオルやトイレットペーパーなどは大学からいただけたので、女性ならドライヤーを持っていくと便利だと思います。

5. アドバイス

韓国に興味を持っている人なら必ず実りあるものになるプログラムだと思います。私自身、韓国へ行くのは 3 回目でしたが、18 日間という長い期間は初めてだったので今まで知らなかった韓国を知ることができました。韓国語は授業だけでなく韓国人の方との会話をたくさんすることができるので、韓国語の勉強をしている人は実践の場としていい経験になると思います。また、食べたいものや行きたいところを決めておくとも有意義に休日を過ごせると思います。

6. 最後に

今回のプログラムは韓国へ行く日に台風が直撃し、到着が深夜になってしまうというトラブルから始まり、漢城大学校の先生をはじめ、様々な方にご迷惑をおかしてしまいました。皆さんとても良くしてくださり、充実した時間を過ごすことができました。参加する前は不安もありましたが、今は参加して本当に良かったと思っています。今、政治問題により国同士の関係はよくありませんが、そんな

時だからこそ互いを理解することの大切さを実感しました。また、韓国語の实践ができたことも大切な経験となりました。それも多くの方のご協力があったからだと思います。このプログラムに関わったすべての方に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



<漢江の前で>



<漢城大学校の校舎>